

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

報告数131件(前月比7.3・前年同月比13.1)と急増しています。菊池(報告数37、定点あたり4.6)、御船(同12、同2.4)、熊本(同40、同1.6)が多いようです。定点当たり報告数が、1.0を越していないのは、人吉(定点当たり0.8)、天草(同0.6)で、水俣からの報告はありませんでした。これ以外の地区での報告はありますので、県下で発生が始まったと考え、今後増加が予想され例年以上に注意が必要と考えられます。年齢的には年長児以上から成人に多いようです。

小児科定点

(全体傾向)

報告総数4,275件(前月比1.07、前年比1.16)でした。前月比で増加した疾患は、インフルエンザ(前月比7.3)です。その他に増加の目立つものは、感染性胃腸炎(前月比1.3)、水痘(同1.5)です。RSウイルス感染症が(前月比0.6)と減少しています。また、10月に増加に転じた手足口病は、前月比では1.0ですが、前年同月比5.8とこの時期にしては多いようです。同じくヘルパンギーナも7月をピークとして減少してきていますが、9月から11月への減少幅が少ないようです。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数266件(前月比0.6、前年比1.3)です。昨年は12月に増加していますが、一昨年は減少しており、また報告数もこの3年の中間となっています。八代54件(定点あたり13.5)、水俣26件(同13.0)、有明61件(同12.2)に多いようです。県内7カ所から二桁の報告がある一方で、発症報告のない地区が3カ所ありました。0歳~1歳を中心としていますが、2歳~4歳の報告もあります。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数55件(前月比1.2、前年比0.6)です。3月(119件)と9月(94件)に報告が多いようですが、減少してきています。昨年12月と今年1月に急増した経過がありますので注意は必要でしょう。菊池(報告数24件・定点あたり4.8)に多いようです。年齢も1歳を中心として、小児から幅広い報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数242件(前月比1.2、前年比0.8)です。推移としては例年同様です。宇城47件(定点あたり11.8)、菊池44件(同8.8)、人吉18件(同6.0)が多いようですが、山鹿を除き県下から報告があります。6歳を中心とし、3~8歳から広く報告があります。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数2,121件(前月比1.3、前年比1.1)と例年並みの推移です。阿蘇・天草・水俣を除いた地区で三桁の報告、少ない地区でも二桁の報告があります。菊池534件(定点あたり106.8)と特に多いようです。次に山鹿159件(同79.5)、有明287件(同57.4)、八代200件(同50.0)が多いようです。全年齢から多くの報告があります。
5. 水痘 : 報告数96件(前月比1.5、前年比2.6)と、ここ数年では低い水準でしたが、9月ごろからやや増加に転じています。予防接種率との考察が必要でしょう。山鹿7件(定点あたり3.5)、菊池14件、八代11件、有明14件、宇城11件、いずれも定点当たり2.8で、これらの地区からの報告が多いようです。地域に偏った流行傾向は続いているようで、予防可能な疾患であることを考慮すれば、水痘接種率などの地域別対策の調査検討が必要でしょう。
6. 手足口病 : 報告数489件(前月比1.0、前年比5.8)と、発生推移が例年と異なり9月から増加しています。菊池85件(定点あたり17.0)、天草56件(同14.0)に多いようです。年齢も1歳代をピークに幅広く分布しています。

7. 伝染性紅斑 : 報告数20件(前月比1.2、前年比0.1)です。昨年秋からの流行も1月をピークとして減少しています。しかしながら発生は低水準で続いています。熊本6件、山鹿5件、菊池3件と各地から数件ずつ報告されています。減ったとはいえ、今後も発生動向に注意は必要でしょう。
8. 突発性発疹 : 報告数108件(前月比0.8、前年比0.8)と、例年同様の推移です。菊池の28件(定点当たり5.6)と有明17件(同3.4)が多いようですが、御船を除く県下各地から報告があります。2歳での3件の報告がありました。
9. 百日咳 : 菊池から1件報告がありました。年齢層は10~14歳代です。
10. ヘルパンギーナ : 報告数121件(前月比0.8、前年比3.9)で、9月以降の減少幅が小さく、この時期にしては報告が多いようです。菊池43件(定点当たり8.6)に多く、天草22件(同5.5)、八代16件(同4.0)と続いています。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数305件(前月比0.7、前年比4.1)と、今回の流行は9月をピークとして減少に転じたようです。昨年11月と同じ水準であり今後も減少していくのか動向に注意が必要です。八代102件(定点当たり25.5)が特に多いようです。以後菊池55件(同11.0)と続いています。0歳児の報告は1件のみであり、予防接種にて予防可能な疾患であり積極的対策の実施が必要と考えられます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありませんでした。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数は124件(前月比1.1、前年同月0.9)です。熊本77件、有明45件、菊池2件の報告ですが、今月は有明地区の発症が目立ちます。年齢別では30歳代をピークに20~59歳に多発していますが、1~4歳台にも多く発症していますので保育園等での感染拡大が心配されます。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数63件(前月比1.4、前年比1.6)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性34件、女性29件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は15~64歳に見られ、女性は15~44歳に見られます。地域別は、熊本が43件、次いで有明6件、御船、八代各5件、宇城3件、菊池1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 報告数21件(前月比0.8、前年比1.1)で前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性10件、女性11件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は15~54歳に見られ、女性は20~70歳以上に見られ、幅広い年齢に見られます。地域別は、熊本11件、次いで菊池4件、八代、有明、宇城各2件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数10件(前月比1.7、前年比5.0)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性3件、女性7件で、年齢別は男性は20~39歳に見られ、女性は15~44歳に見られます。地域別は、熊本8件、菊池、御船各1件でした。

4. 淋菌感染症：

報告数26件（前月比1.2、前年比1.7）で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性23件、女性3件でした。年齢別は、男性は15～44歳に見られ、女性は20～24歳に見られます。地域別は、熊本が24件、次いで八代、有明各1件でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

23件（前月比1.4、前年比2.1）の報告がありました。

熊本9件、山鹿2件、菊地1件、阿蘇2件、八代3件、水俣1件、人吉3件、有明2件でした。

年齢は1～4歳：2件、20～24歳：1件、40～44歳：1件、60～64歳：1件、65～69歳：2件、70歳以上：16件でした。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

5件（前月比1.7、前年比1.7）の報告がありました。

熊本2件、有明3件でした。年齢は50～54歳：1件、60～64歳：1件、70歳以上：3件でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告ありませんでした。（前月比－、前年比－）

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎：

報告ありませんでした。（前月比－、前年比－）

2. 無菌性髄膜炎：

3件（前月比0.3、前年比0.6）の報告がありました。

熊本3件でした。年齢は15～19歳：1件、20～24歳：1件、35～39歳：1件でした。

3. マイコプラズマ肺炎：

43件（前月比1.0、前年比1.7）の報告がありました。

熊本28件、八代2件、水俣8件、人吉2件、有明1件、天草2件でした。

年齢は1～4歳：17件、5～9歳：11件、10～14歳：11件、15～19歳：2件、25～29歳：1件、40～44歳：1件でした。

4. クラミジア肺炎：

報告ありませんでした。（前月比－、前年比－）

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

2件（前月比－、前年比0.3）の報告がありました。

熊本2件でした。年齢は0歳：2件でした。

届け出対象感染症

1類感染症：報告はありませんでした。

2類感染症：結核 15件

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 5件

4類感染症：つつが虫病 10件

日本紅斑熱 2件

レジオネラ症 7件

アメーバ赤痢 1件

カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1件

後天性免疫不全症候群 1件

5類感染症：侵襲性肺炎球菌感染症 3件

水痘（入院例） 7件

梅毒 1件

播種性クリプトコックス症 1件